



暮らしの学校だいたらぼっちの紹介 @銀座NAGANO

NPO法人グリーンウッド自然体験教育センター
専務理事・事務局長 齋藤 新

●グリーンウッドが活動する泰阜村



- 人口1439人
- 国道も信号もコンビニもない
- 秘境駅^{ランキング}TOP10に2駅に
- 小中学校が1校^{ずつ}
- 天竜川とその支流に囲まれた自然

不便な暮らしを生き抜く知恵と協働性

「1年間のキャンプがしたい!!!」

米を育てたり、畑を耕して食べ物が作れる！
食器や家具だって作れる！
もしかしたら家だって作れる！
全部自分たちで作れる暮らしができる！

38年前にこどもたちとの家づくりからはじまった

●グリーンウッドが活動する泰阜村



●グリーンウッドが活動する泰阜村





ここで得たのは

こどもの声に耳を傾ければ、こどもは自ずと**主体性を発揮する**
必然と偶然の暮らしを学び場にすると、こどもたちは**自ら学ぶ**

現在のいだらぼっち



今年のこどもたち

小学生14名・中学生5名
(女子11名・男子8名)



毎年18名の小中学生が全国から集まり1年間暮らす

暮らしの学校いだらぼっちとは？

- 全国から集った**小学4年～中学3年生**までの**19名**の子どもたち（2023年度）
- **1年間の共同生活**を営みつつ**村の小中学校**へと通う
- こどもが**食事や風呂たき、掃除、洗濯**など、**暮らしの一切**を手掛けていく
- 暮らしのルール、スケジュール、困りごとは全て「**話し合い**」で決める
- **民間NPOが運営**する**38年目**の活動



暮らす

自分たちの手と足と知恵を使って

話し合い
で決める

薪



86%が森林の泰阜村。こどもたちが手に入れられるエネルギーとして薪を選択。山から薪を出し、自分たちで割る

田畑



放棄農地を活用。年間600kgほどの米と野菜を育てる。こどもたちは田畑の達人のお年寄りを「かっこいい！」と尊敬。





鶏



卵を得るために飼育。残飯をエサに、フンは肥料にするなど循環の役割も。ふ卵器で孵すことに挑戦したり、絞めた鶏を食べるなど本物の食育の場にも





遊び



村の自然、信州の自然が遊び場であり、成長の場。遊びは子どもたちが全て発案、計画を立てて行う。

自然
の
恵み



四季折々の恵みを採ったり、食べ物を作ったり、染め物をしたり。



陶芸



暮らしで使う食器は全てこどもの手作り。
1250°Cで焚く登り窯もこどもが行う。



小屋 建設



必要な建物は山から材を出して建設することも。大工さんに教わるホンモノと触れ合う機会に。



木工



箸にはじまり、スプーンやフォーク。お皿やイス、机などこどもの興味によってなんでも手作り。材料は山から取り放題。





循環



生ごみをたい肥に。鶏のフンは肥料に。ストーブの灰やワラを燃やした灰を釉薬に。暮らしから出たものを最大限使い切る。



一人一票



大人も子どもも一人一票。多数決ではなく、全員で決定する話し合いで、だいだらぼっちの暮らしは決められる

卒業した子どもたちはどうなるのか？

人それぞれ

とりあえずやってみる
ハードルが低い

多様性・協働力

主体性・創造力

誰とでもそれなりに
仲良くやれる

ひと

つゆき しいな 露木 志奈 さん(19)



プラスチックのストローは使わない。マイボトルを持ち歩く。家では再生エネルギーの電力会社を選んだ。都内の学校で昨年末、自身が意識している小さな選択について語った。「一人ひとりが行動すれば、世界は必ず変えられる」

横浜中華街で育ち、幼い頃から自然が大好き。小学4、5年の時は長野県泰阜村へ山村留学した。ただ中学ではテスト勉強が苦手で、英語の成績が5段階評価の1だったこともある。そんな娘を思い、母は合いそうな学校を海外に探しあてた。インドネシア・バリ島のグリーンスクール。ジャンクルの中にある竹の校舎で、電気や食料を自給する私立校だ。

教科書のない学校に留学し、天然素材の口紅作りにとりくんだ。環境問題にめざめた転機は、現地で見つかったゴミの山だった。「私たちが消費者が変わらなきゃ」。2018年と19年には国連の気候変動会議で欧州へ。スウェーデンの環境活動家グレタ・トゥンベリさん(18)にも会い、刺激を受けた。

思いを伝えた子どもたちは3千人を超えた。目標は47都道府県で21万人に話すことだ。「100人のうち動いてくれるのは2、3人でもいい。同世代だからこそ、伝わるものがあると思う」

文・西村悠輔 写真・上田幸一

◇◆◇ 評価された教育 ◇◆◇

★オーライ！ニッポングランプリ（2023）

★環境省グッドライフアワード優秀賞（2021）

★信州協働大賞（2017）

★地域づくり総務大臣表彰（2012）

★読売教育賞最優秀賞（2009）

他



参加について

募集要項

名称 暮らしの学校 だいだらぼっち

運営 NPO法人グリーンウッド自然体験教育センター

期間 2024年4月1日より
2025年3月31日までの1年間

定員 18名程度

大事なもの **本人のやる気**

持ってきては
いけないもの **親の期待**

申込みの流れ
(1) 参加仮申し込み提出
(2) 事前体験合宿
(3) 第一次考査 書類考査
(4) 第二次考査 親子面接

費用 月額負担金10万円・契約時納入金33万円（村からの補助あり）

参加の流れ



① 仮申し込み書

郵送にて「参加仮申し込み書」を提出していただく

<参加仮申し込み書類受付>

2023年7月1日(金) ～

② だいだらぼっちより体験合宿のご案内

提出していただいた「参加仮申し込み書」を確認させていただき、お電話にて現地面談のご連絡いたします。

③ 「体験合宿申込書」を提出していただく

「現地面談申込書」をお送りしますので、メール、FAX、郵送のいずれかにて提出していただきます。



④体験合宿

参加を希望する児童生徒がだいだらぼっちで1泊2日を暮らし体験をする中で、3者それぞれが次の段階に進むかを判断する。

⑤参加本申込み書類提出（第一次考査）

参加を希望する場合は「参加本申込書」、「ご本人による作文」、そのほか必要書類を提出していただきます。

⑥親子面接（第二次考査）

第一次考査通過の方は暮らしの学校「だいだらぼっち」にて親子面接（12月末）を行います。

2024年度合否決定